

基準ごとの自己評価

基準1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点1-1-1 : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では創設時に学校の使命を定め、学則に掲げている(資料1-1-1-1)。本校は、京葉工業地帯の一角を占め、日本有数の工業県である千葉県の木更津市に、最新技術の根本の原理を修得し、実社会において即戦力として活躍する技術者の育成をめざし、1967年に創設された。創設から現在に至るまで、製造業を始めとする産業界の発展に貢献しうる多くの人材を輩出し、本校が社会において担っている「ものづくり基盤の確立」という基本的な役割は、変わっていないと考えているため、この使命は現在に至るまで貫かれている。

更に、本校では2001年4月に専攻科の使命を定め、学則に掲げている(資料1-1-1-1)。近年の技術の発展における質的变化を概観するとき、科学技術の高度化や独創的発想が求められることに加えて、専門領域の境界が特定しにくくなってきているなど、社会的背景が著しく変化してきている。高専5年間の教育体系を基盤として、より高度な専門の科学技術及び境界領域の知識の修得・人間形成の教育を行う教育機関として発展させる必要があり、専攻科(3専攻:機械・電子システム工学専攻, 制御・情報システム工学専攻, 環境建設工学専攻)を設置している。設立時から現在に至るまで、地域密着型の開かれた専攻科として発展してきており、学則に掲げられている使命が土台になっている。

また1967年12月、開校以来検討されてきた教育方針が明文化され(資料1-1-1-2)、現在に至るまで本校における建学の精神として、学生及び教職員に広く浸透している。

学校としての達成しようとしている基本的な成果は、前述の教育方針(資料1-1-1-2)から伝統的に培われてきた実学教育を、より具体的に学習・教育目標という形で明文化している。準学士課程における学習・教育目標(資料1-1-1-3)は、2006年2月に本校の伝統、建学の精神を考慮し発展的に定められ、専攻科課程における学習・教育目標(資料1-1-1-4)は、2004年2月に定められ、現在に至っている。

更に、本校では、前述の学習・教育目標を達成するために、準学士課程において、各学科・学系の教育目的を、それぞれの学科・学系の特性に応じて定めている(資料1-1-1-5)。これらの教育目的は、科学技術の発展及び社会構造の変化に対応したカリキュラム改訂に伴い変遷し、現在に至っている。また、専攻科課程においても、各専攻の特性に応じた教育目的を、2001年4月に定め現在に至っている(資料1-1-1-6)。

資料 1 - 1 - - 1

本校の使命

第 1 章 本校の目的

(目的)

第 1 条 木更津工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(中略)

第 7 章 専攻科

(目的)

第 37 条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(出典 木更津工業高等専門学校学則)

資料 1 - 1 - - 2

教育方針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかななければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛錬

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。

本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(出典 学生便覧)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1．人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2．科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3．コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4．創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 学生便覧)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1．人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2．科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3．コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4．創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(出典 学生便覧)

各学科・学系の教育目的

本校の準学士課程では、5年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。以下に各学科および学系の教育目的を示します。

機械工学科： 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる技術者を育成する。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成する。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる技術者を育成する。

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成する。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成する。

人文学系： 国語、社会、保健・体育、外国語等の教育を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し、国際的視野を持たせ、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/jungakushi.html>)

各専攻の教育目的

本校には、5年間の準学士課程の上級コースとして2年間の専攻科があります。専攻科は、準学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とします。以下に各専攻の教育目的を示します。

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成を目指す。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/senkoka.html>)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、創設時より、学校が社会において担う基本的な役割として、高等専門学校の使命を定めている。また、社会的背景の著しい変化に対応して、専攻科を設置し、その使命を定めている。これらの使命を具体化するための教育方針は、本校における建学の精神として、創設当時より明文化されている。更に、この教育方針を土台にして、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標が展開され、明文化されている。準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標を比較すると、教育方針から派生する共通的な目標を有している一方で、より高度な専門の科学技術及び境界領域の知識の修得及び応用という項目において、明確な相違点がある(資料1-1--7)。加えて、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標を達成するために、準学士課程においては、各学科・学系の教育目的、専攻科課程においては、各専攻の教育目的が具体的に定められている。

以上のことから、本校は、高等専門学校として目的を明確に定めている。

資料 1 - 1 - - 7 (1 / 2)

準学士課程および専攻科課程における学習・教育目標の相違点

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力 3) 倫理的・美的価値への感受性</p> <p>を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>	<p>専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力 2) 国際化や高度情報に柔軟に対応できる基礎能力 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚</p> <p>を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>
<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。 (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>	<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>
<p>2. 科学技術の修得</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。</p>	<p>2. 科学技術の修得と応用</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。 (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。</p>

資料 1 - 1 - - 7 (2 / 2)

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>3. コミュニケーション能力 高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。 (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。</p>	<p>3. コミュニケーション能力 国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。 (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>
<p>4. 創造力 自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>4. 創造力 自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。</p> <p>(1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。</p>

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会認証評価部門議事録 No.06/02/14-1N)

観点 1 - 1 - : 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の使命 (資料 1 - 1 - - 1) は、高等専門学校創設の趣旨である「中堅技術者の養成」という目的及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。すなわち、学校教育法第 70 条の 2 に謳われている、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という目的が、本校の学則第 1 条に忠実に反映されている。また、本校の教育方針、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、更には準学士課程における各学科・学系の教育目的及び専攻科課程における各専攻の教育目的は、高等専門学校一般に求められる目的を、明確に意識して策定されている。その対応関係を示すと次のとおりである (資料 1 - 1 - - 1)。

資料 1 - 1 - - 1 (1 / 3)

本校の教育目的と学校教育法との対応関係

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>本校の教育方針のうち、</p> <p>(2) 専門の科学技術の修得</p> <p>21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかねなければならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。</p>	<p>本校の教育方針のうち、</p> <p>(1) 人間形成</p> <p>いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。</p> <p>(3) 心身の鍛錬</p> <p>社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。</p>
<p>準学士課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>2. 科学技術の修得</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。</p> <p>(2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。</p> <p>(3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。</p> <p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>準学士課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>(1) 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献する優れた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。</p> <p>(2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。</p> <p>(3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p> <p>3. コミュニケーション能力</p> <p>高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。</p> <p>(3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。</p>

資料 1 - 1 - - 1 (2 / 3)

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
機械工学科の教育目的のうち、 材料・材料力学分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い、	機械工学科の教育目的のうち、 ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
電気電子工学科の教育目的のうち、 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、	電気電子工学科の教育目的のうち、 創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
電子制御工学科の教育目的のうち、 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、	電子制御工学科の教育目的のうち、 制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者育成をめざす。
情報工学科の教育目的のうち、 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、	情報工学科の教育目的のうち、 総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
環境都市工学科の教育目的のうち、 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、	環境都市工学科の教育目的のうち、 自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。
	人文学系の教育目的のうち、 国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことをめざす。
	基礎学系の教育目的のうち、 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

資料 1 - 1 - - 1 (3 / 3)

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>専攻科課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>2. 科学技術の修得と応用</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。</p> <p>(2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。</p> <p>(3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。</p> <p>(4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。</p> <p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。</p> <p>(1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。</p>	<p>専攻科課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養のもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。</p> <p>(2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p> <p>3. コミュニケーション能力</p> <p>国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。</p> <p>(3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>
<p>機械・電子システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた</p>	<p>機械・電子システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。</p>
<p>制御・情報システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、</p>	<p>制御・情報システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。</p>
<p>環境建設工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、</p>	<p>環境建設工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成をめざす。</p>

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会認証評価部門議事録 No.06/04/03-5N-1B)

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命は、高等専門学校創設趣旨及び学校教育法の目的を踏まえて策定されている。また、本校の教育方針は、学校教育法の高等専門学校の目的との対応を、明確に意識したうえで策定されている。更に本教育方針を土台にして展開されている準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、各学科・学系及び各専攻の教育目的も、学校教育法の高等専門学校の目的を具現化したものとなっている。

以上のことから、本校の目的は学校教育法の定めにはずれものではない。

観点 1 - 2 - : 目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命は、学校要覧(資料 1 - 2 - - 1)、ウェブページ(資料 1 - 2 - - 2)に掲載されている。また、学生便覧(資料 1 - 2 - - 3)にも学則に含まれる形で掲載されている。

本校の教育方針は、学校要覧(資料 1 - 2 - - 4)、ウェブページ(資料 1 - 2 - - 5)及び学生便覧(資料 1 - 1 - - 2)に掲載されている。

準学士課程の学習・教育目標は、学校要覧(資料 1 - 2 - - 6)、学生便覧(資料 1 - 1 - - 3)及びウェブページ(資料 1 - 2 - - 7)に掲載されている。また、準学士課程における各学科・学系の教育目的は、学校要覧(資料 1 - 2 - - 8)、学生便覧(資料 1 - 2 - - 9)及びウェブページ(資料 1 - 1 - - 5)に掲載されている。ここで、学生便覧においては、表題を「各学科の専門科目及び一般科目の達成項目」とし、学生が見て分かりやすいように表現している。

専攻科課程の学習・教育目標は、学校要覧(資料 1 - 2 - - 10)、学生便覧(資料 1 - 1 - - 4)及びウェブページ(資料 1 - 2 - - 11)に掲載されている。また、専攻科課程における各専攻の教育目的は、学校要覧(資料 1 - 2 - - 12)、学生便覧(資料 1 - 2 - - 13)及びウェブページ(資料 1 - 1 - - 6)に掲載されている。準学士課程の場合と同様、学生便覧においては、表題を「各専攻の専門科目の達成項目」とし、学生が見て分かりやすいように表現している。

学校要覧、学生便覧については、それぞれ教職員や学生に配付し、周知が図られている(資料 1 - 2 - - 14)。

本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的は、年度初めの教員会議及び技術教育支援センター会議において資料を配付し(資料 1 - 2 - - 15, 資料 1 - 2 - - 16)、周知徹底を図っている。

また、教員採用時の初任者研修では、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的についても重点的に説明がなされている(資料 1 - 2 - - 16)。

準学士課程の学生に対しては、新入生ガイダンス(教務主事による学習についての話)、第 2 学年～第 5 学年における年度初めの H.R.(資料 1 - 2 - - 17)の中で、本校の使命、教育方針、準学士課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的が重点的に説明され、周知徹底が図られている。

また、専攻科課程の学生に対しては、新入生ガイダンス及び第 2 学年ガイダンス(資料 1 - 2 - - 18)の中で、専攻科課程の学習・教育目標、専攻科課程における各専攻の教育目的が重点的に説

明され、周知徹底が図られている。

本校では、教員及び技術教育支援センター職員は、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、自らが所属する学科・学系の教育目的、自らが関連する専攻の教育目的について、事務職員は、本校の使命、教育方針について、それぞれ良く認識していることが必要であると考えている。また、準学士課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、学系及び自らが所属する学科の教育目的について、専攻科課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、自らが所属する専攻の教育目的について、それぞれ良く認識していることが必要であると考えている。

教員及び技術教育支援センター職員のアンケートの結果を見ると、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、学科・学系、専攻の教育目的全てについて、良く理解していることが分かる（資料 1 - 2 - -19, 資料 1 - 2 - -20）。また、事務職員のアンケートの結果を見ると、本校の使命、教育方針について、良く認識していることが分かる（資料 1 - 2 - -21）。

一方、学生アンケートでは、準学士課程の学生において、本課程の学習・教育目標、学系及び自らが所属する学科の教育目的をあまり認識していないとの回答率が比較的高い。この背景として、準学士課程の学習・教育目標及び各学科・学系の教育目的を、達成項目として現在の形にまとめ明示したのは、今年度になってからであり、さらなる周知徹底の取り組みが必要であると考えられる（資料 1 - 2 - -22）。専攻科課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、自らが所属する専攻の教育目的について、それぞれ良く認識している（資料 1 - 2 - -23）。

資料 1 - 2 - - 1

本校の使命

木更津工業高等専門学校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典 学校要覧 1 頁）

資料 1 - 2 - - 2

本校の使命

木更津工業高等専門学校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/shimei.html>）

資料 1 - 2 - - 3

本校の使命

6 - 1 学 則

第 1 章 本校の目的

（目的）

第 1 条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（中略）

第 7 章 専攻科

（目的）

第 37 条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典 学生便覧 79 頁，86 頁）

教 育 方 針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛錬

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。

本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(出典 学校要覧 1 頁)

本校の教育方針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛錬

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。

本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/shimei.html>)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1．人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2．科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3．コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4．創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 学校要覧 4頁)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1．人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2．科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3．コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4．創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/jungakushi.html>)

各学科・学系の教育目的

本校の準学士課程では、5 年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の 5 つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。以下に各学科および学系の教育目的を示します。

機械工学科： 材料・材料力学分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い，ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え，生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い，自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

人文学系： 国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

(出典 学校要覧 5 頁)

各学科の専門科目及び一般科目の達成項目

機械工学科： 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に応用できること。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる知識を修得し、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる能力を身につけること。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、制御システムに関する設計や問題解決に対応できる能力を身につけること。

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野に関する知識を修得し、総合的な情報処理システムの知識を身につけること。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけること。

人文学系： 国語，社会，保健・体育，外国語等の修得を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を獲得し，国際的視野を持ち，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力を身につけること。

基礎学系： 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎の知識の修得を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになること。

(出典 学生便覧)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1．人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2．科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3．コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4．創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(出典 学校要覧 18 頁)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1．人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2．科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3．コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4．創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- (1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/senkoka.html>)

資料 1 - 2 - - 12

各専攻の教育目的

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成を目指す。

(出典 学校要覧 19,20,21 頁)

資料 1 - 2 - - 13

各専攻の専門科目の達成項目

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ、先端技術に対応した研究開発ができること。

(2) 制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する知識を修得し、創造的、実践的な制御システムの研究開発ができること。

(3) 環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。

(出典 学生便覧)

資料 1 - 2 - - 14

教育目的の掲載状況

	「使命」「教育方針」の掲載	準学士課程，専攻科課程における学習・教育目標の掲載	各学科・学系，各専攻の教育目的の掲載	配布対象者
学校要覧	あり	あり	あり	全教職員
学生便覧	あり	あり	あり	全教職員及び学生
ウェブページ	あり	あり	あり	—

(出典 JABEE 認定・認証評価推進委員会認証評価部門議事録 No.06/04/03-5N-1B)

資料 1 - 2 - - 15 (1 / 3)

各課程の学習・教育目標および学科・学系，専攻科ごとの目的について

各課程の学習・教育目標

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>準学士課程では，教養ある社会人としての技術者の育成として，自主自立の精神と国際的視野を持ち，</p> <p>1)基礎学力と工学に関する基礎的な知識 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力 3) 倫理的・美的価値への感受性を備え，他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして，以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>	<p>専攻科課程では，自らがよって立つ所の深い専門性に加え，学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた，質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち，</p> <p>1)複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚を備え，他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして，以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>
<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い，社会に貢献するすぐれた人間として，幅広い教養をもとに，技術者としての責任を自覚し，その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 深く社会について理解し，広い視野が持てるよう，豊かな教養を身につける。 (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し，技術者としての責任を自覚する。</p>	<p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い，社会に貢献するすぐれた人間として，幅広い教養をもとに，技術者としての責任を自覚し，その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し，技術者としての責任を自覚する。</p>
<p>2. 科学技術の修得</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し，積極的に活用しようとする技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 実験・実習を通して，ものづくりに必要な力を身につける。</p>	<p>2. 科学技術の修得と応用</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し，境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。 (3) 異なる技術分野を理解し，得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。 (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。</p>

資料 1 - 2 - - 15 (2 / 3)

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>3. コミュニケーション能力</p> <p>高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じた的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。 (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。</p>	<p>3. コミュニケーション能力</p> <p>国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じた的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。 (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。 (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>
<p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。</p> <p>(1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。</p>

各学科・学系の教育目的

本校の準学士課程では、5年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。以下に各学科および学系の教育目的を示します。

機械工学科： 材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電子制御工学科： 制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者育成をめざす。

資料 1 - 2 - - 15 (3 / 3)

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

人文学系： 国語、社会、保健・体育、外国語等の教育を通じ、心身の鍛錬と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し、国際的視野を持たせ、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

専攻科の教育目的

本校には、5年間の準学士課程の上級コースとして2年間の専攻科がある。専攻科は、準学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。

(2) 制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成をめざす。

(3) 環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成をめざす。

(出典 平成 17 年度教官会議資料)

資料 1 - 2 - - 16 (1 / 4)

本校の教育方針について

(1) 本校の使命

本校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(2) 本校の教育方針

人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

心身の鍛錬

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(3) 準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の 4 点の側面から学習・教育目標を設定しています。

資料 1 - 2 - - 16 (2 / 4)

人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- () 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- () 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- () 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- () 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- () 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- () 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じた的確に表現しうる技術者。

- () 日本語の記述能力を身につける。
- () 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- () 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- () 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(4) 各学科・学系の教育目的

機械工学科： 材料・材料力学分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い，ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電気電子工学科： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

電子制御工学科： 制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，制御システムの開発に対応できる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

資料 1 - 2 - - 16 (3 / 4)

情報工学科： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

環境都市工学科： 構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる問題発見・解決型の技術者の育成をめざす。

人文学系： 国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力の養成をめざす。

基礎学系： 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになることをめざす。

(5) 専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- () 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- () 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- () 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- () 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- () 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- () 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

資料 1 - 2 - - 16 (4 / 4)

コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- () 日本語の記述能力を身につける。
- () 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- () 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

- () 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

(6) 各専攻の教育目的

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術，ソフトウェア技術，通信技術，制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い，創造的，実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに，これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成を目指す。

(出典 技術教育支援センター会議資料及び初任者研修資料)

平成 18 年度入学式等日程表 (準学士課程)

	4月9日(日)	4月10日(月)		4月11日(火)		4月12日(水)		4月13日(木)
	寮 生	新 入 生	保 護 者	新 入 生	在 校 生	新 入 生	在 校 生	新 入 生
		新1年生 転入学生 編入学生		新1年生	転入学生 編入学生	新1年生	転入学生 編入学生	新1年生
9				8:50~9:10 新入生ホーム ム(各教室)	8:50~9:00 2年生以上 ホーム(各教室) 9:10 集合 (第1体育館)	8:50~9:10 新入生ホーム ム(各教室)	2年生以上は 平常授業	平常授業
	9:00~ 2年生以上入寮 (昨年までの 入寮者)			9:15~10:00 9:15 1年生入場 女台築式 (第1体育館)		9:20~10:00 学習について の話(教務主事) (図書館ホール)		
10		10:00~10:20 新入生ホーム ム(各教室)	10:15 保護者集合 (第1体育館)	10:00~10:10 入寮式(全寮生) (第1体育館)		10:10~10:50 学生生活につい ての話 (学生主事) (図書館ホール)		
		10:30~11:15 入 学 式 (第1体育館)		10:20~11:30 新入生ホーム ム(各教室)	10:20~ 2年生以上ホーム ム (終了後教科書 の購入)			
11		11:20~12:00 新入生ホーム ム(各教室)	11:20~12:00 新入生保護者 懇談会 (第1体育館)	11:30~12:30 専門学科の紹 介 (各教室)		11:00~11:30 学生相談室長 の話 (図書館ホール)		
						11:40~12:30 新入生ホーム ム(各教室)		
12		解 散	12:05~12:50 学級担任・学科 主任と保護者 との懇談会(各教室)	12:30~13:10		12:30~13:10		12:30~13:10
13			通学生の保護者 は解散	昼 食		昼 食		昼 食
	13:00~ 新入生入寮 (新たに入寮 する者) 13:00~15:00 荷物整理		13:00~ 新入寮生保護者 昼食会 (寮食堂)	13:10~15:00 共通・学科の 施設案内		13:10~15:00 新入生ホーム ム(各教室)		
14			新入寮生保護者 懇談会 (図書館ホール)					
15				15:05~16:00 寮生活について の話 (寮務主事) (寮食堂) 新入寮生のみ				
16	16:00~ 入寮諸注意							

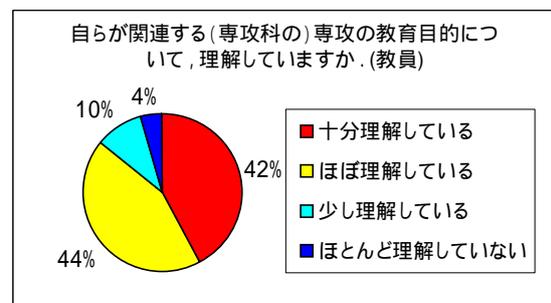
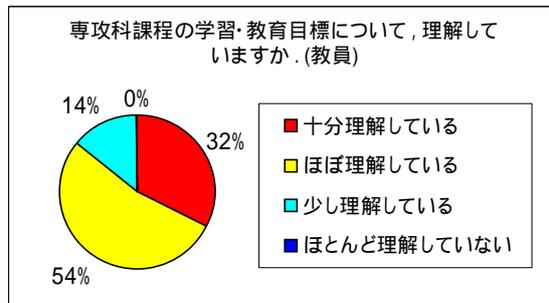
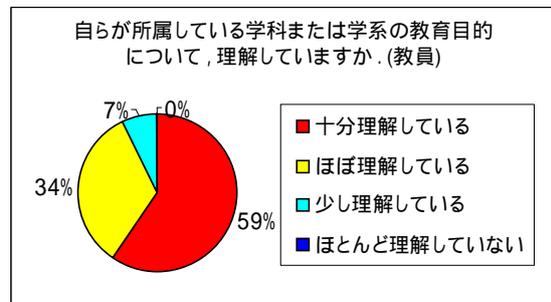
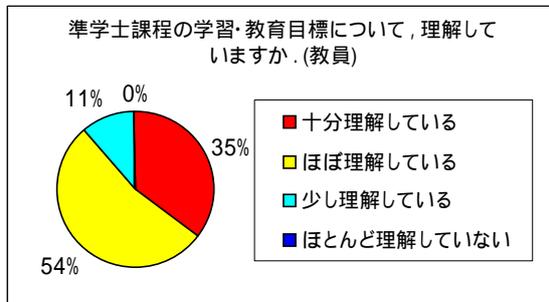
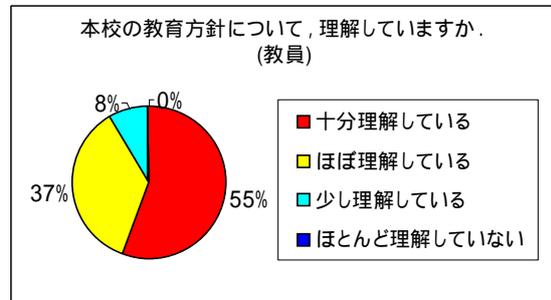
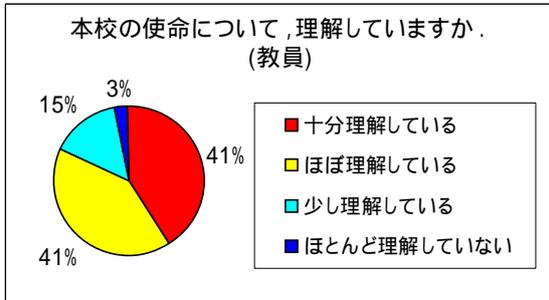
(出典 教務資料)

平成 18 年度入学式等日程表 (専攻科課程)

	4月10日(月)		4月11日(火)		4月12日(水)	
	本科新入生	専攻科生	本科新入生	専攻科生	本科新入生	専攻科生
8			8:50~9:10 ホームルーム (各教室)	9:00~10:00 1年ガイダンス (専攻科講義室A) 専攻科長 3専攻主任	8:50~9:10 新入生ホームルーム (各教室)	8:50~ 授業開始
9		9:15~10:00 入学式 (第1体育館)	2年授業ガイダンス (専攻科講義室B) 副専攻科長		9:20~10:00 学習についての話 (教務主事) (図書館ホール)	
10	10:00~10:20 新入生ホームルーム (各教室)	10:00~10:20 ガイダンス (専攻科講義室A)	10:00~10:10 入寮式 (全寮生) (第1体育館)		10:10~10:50 学生生活についての話 (学生主事) (図書館ホール)	
	10:30~11:15 入学式 (第1体育館)		10:20~11:30 新入生ホームルーム (各教室)	終了後解散		
11	11:20~12:00 新入生ホームルーム (各教室)	11:20~12:00 専攻科長の話 (専攻科講義室A) 終了後解散	10:20~ 2年生以上ホームルーム (終了後 教科書の購入)			11:00~11:30 学生相談室長の話 (図書館ホール)
		12:05~12:30 専攻科長と 保護者との懇談 (専攻科講義室A)	11:30~12:30 専門学科の紹介 (各教室)		11:40~12:30 新入生ホームルーム (各教室)	
12			12:30~13:10 昼食		12:30~13:10 昼食	
13			13:10~15:00 共通・学科の 施設案内		13:10~15:00 新入生ホームルーム (各教室)	
14						
15			15:05~16:00 寮生活についての話 (寮主事) (寮食堂)			
16			新入寮生のみ			

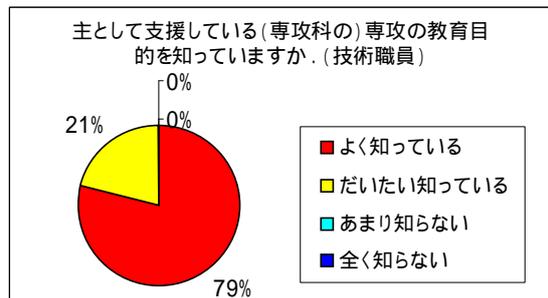
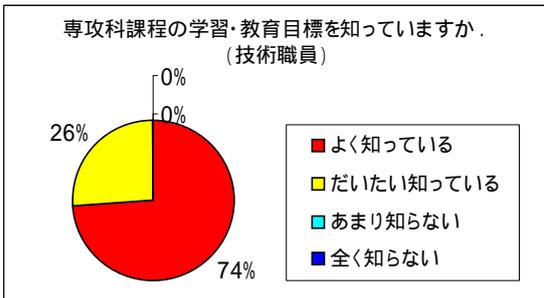
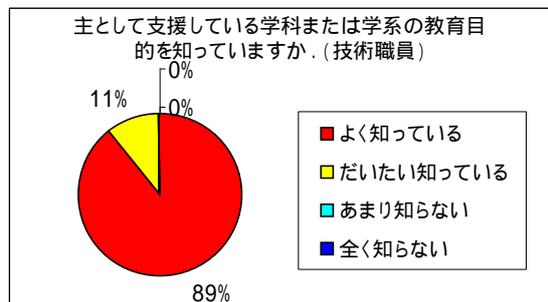
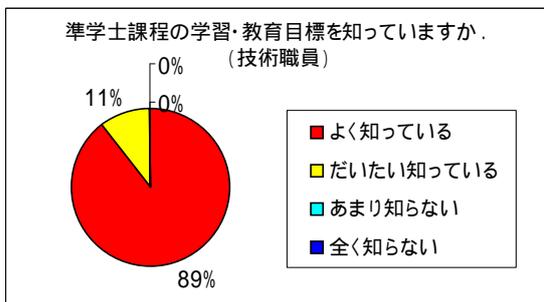
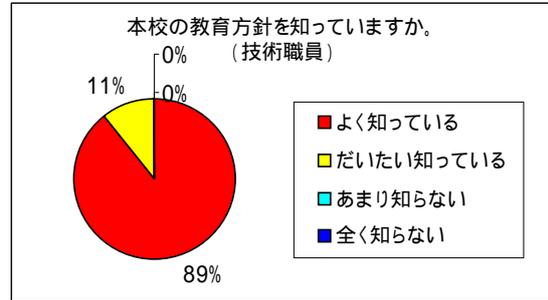
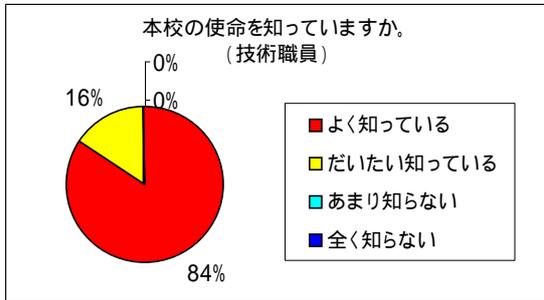
(出典 教務資料)

教育目的の周知度に関するアンケート結果（対象：教員）



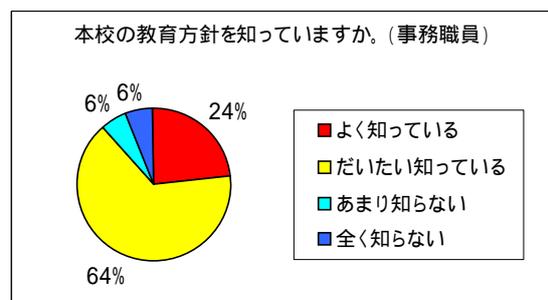
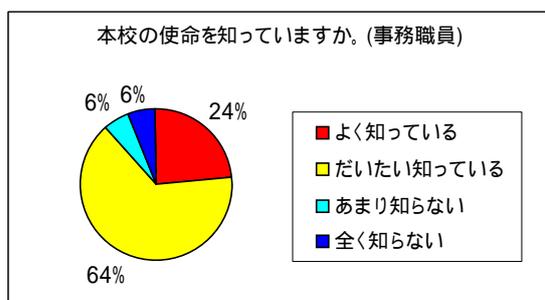
（出典 ウェブページ（認証評価のページ））

教育目的の周知度に関するアンケート結果（対象：技術職員）



(出典 ウェブページ(認証評価のページ))

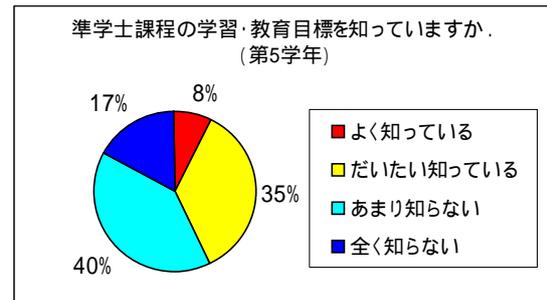
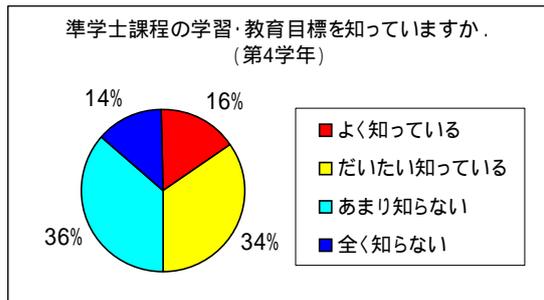
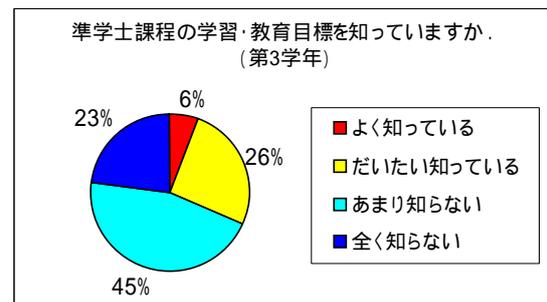
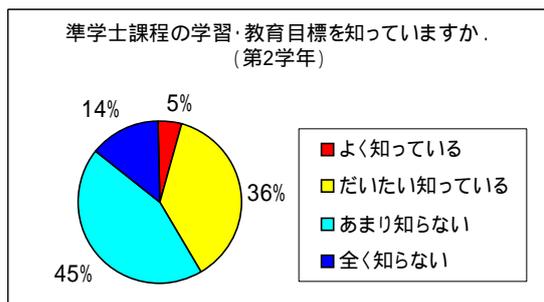
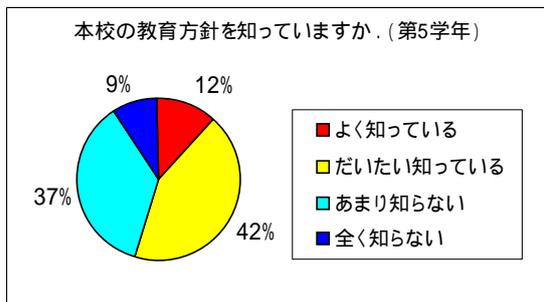
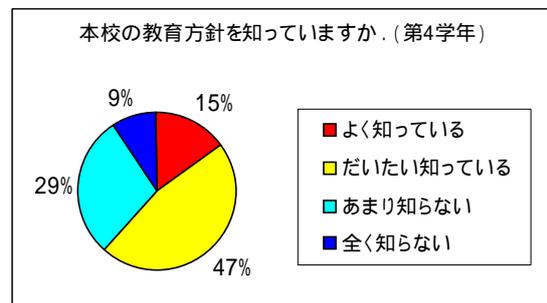
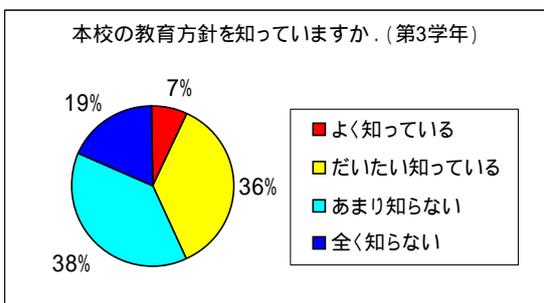
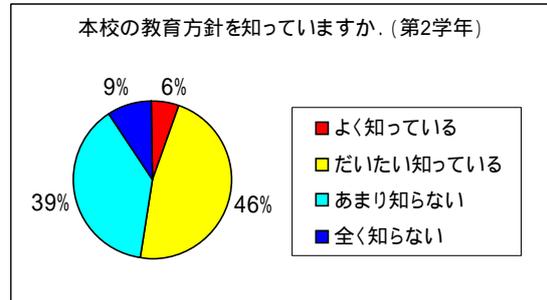
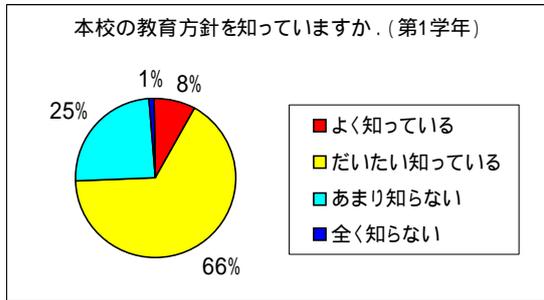
教育目的の周知度に関するアンケート結果（対象：事務職員）



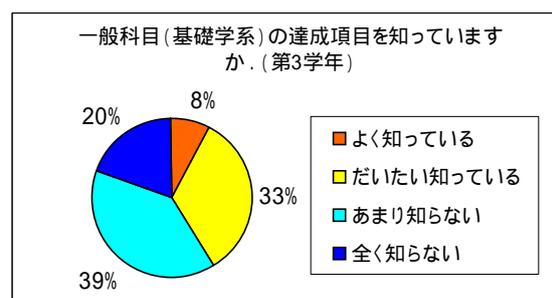
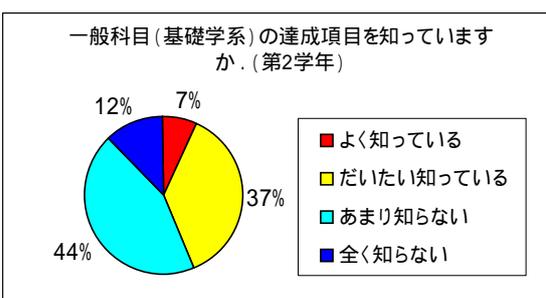
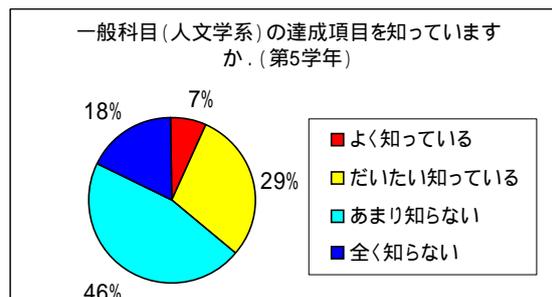
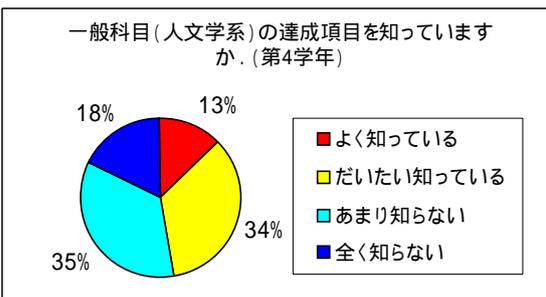
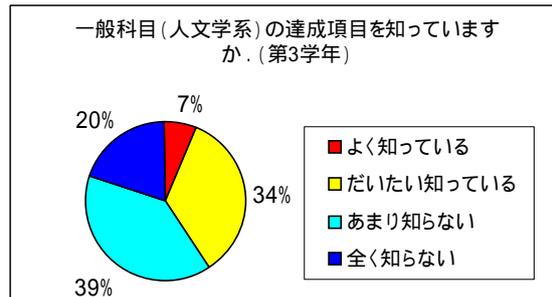
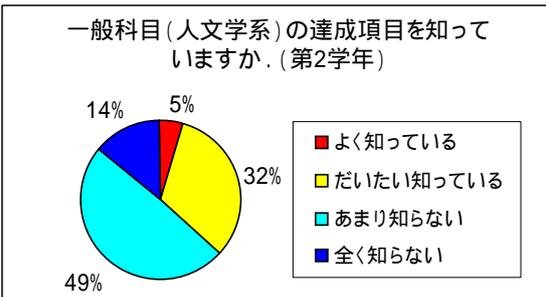
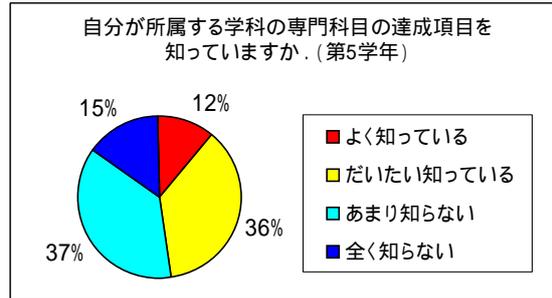
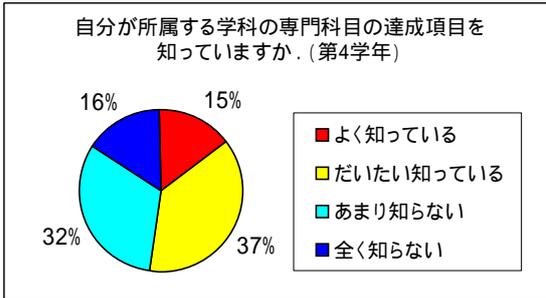
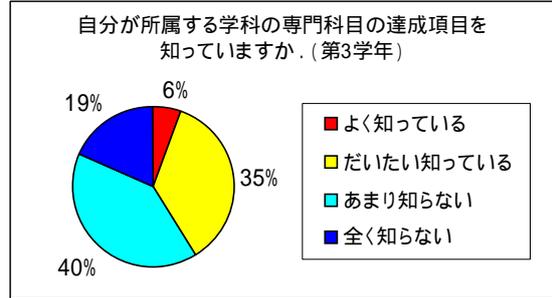
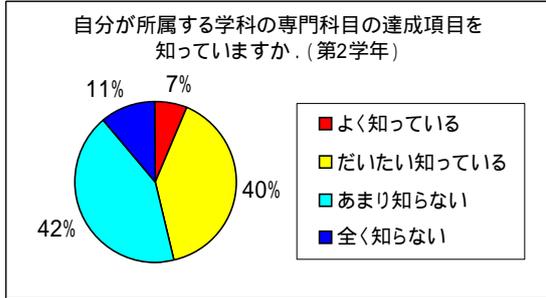
(出典 ウェブページ(認証評価のページ))

資料 1 - 2 - - 22 (1 / 3)

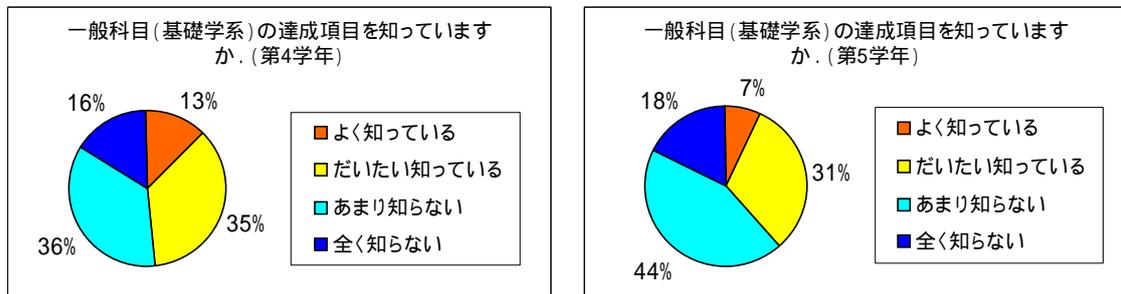
教育目的の周知度に関するアンケート結果 (対象：準学士課程学生)



資料 1 - 2 - - 22 (2 / 3)



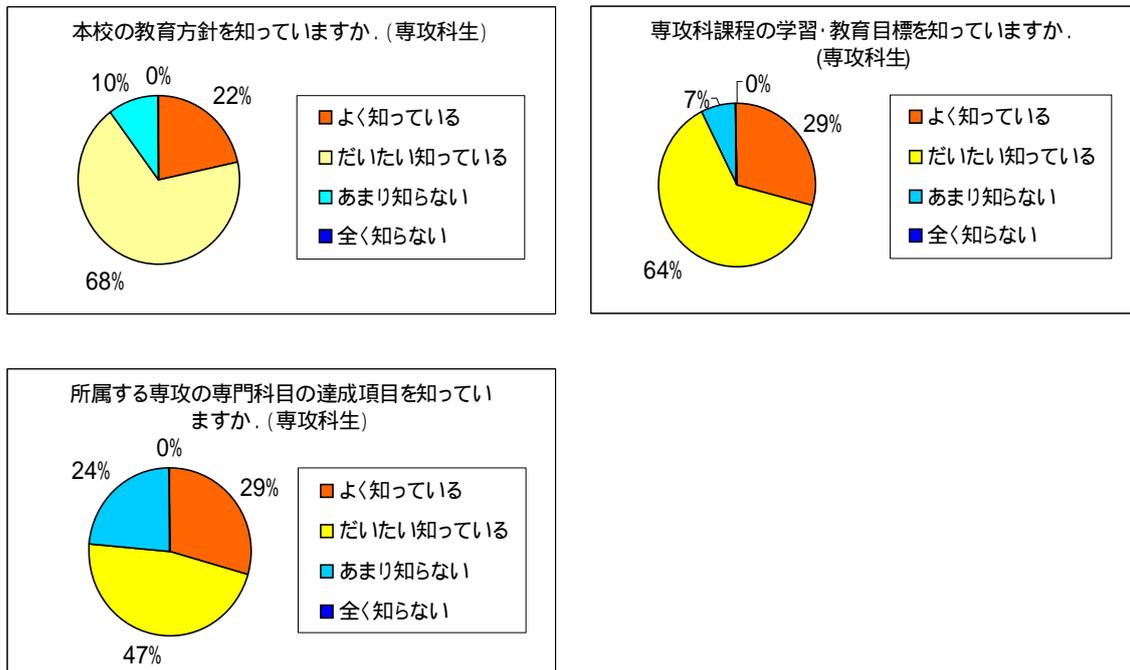
資料 1 - 2 - - 22 (3 / 3)



(出典 ウェブページ (認証評価のページ))

資料 1 - 2 - - 23

教育目的の周知度に関するアンケート結果 (対象 : 専攻科課程学生)



(出典 ウェブページ (認証評価のページ))

(分析結果とその根拠理由)

全教職員及び全学生に対して、冊子(学生便覧,学校要覧)の配付及びウェブページへの掲載によって、目的の周知を図っており、教職員及び学生アンケートの結果から、準学士課程における学生への周知状況に、改善の余地を残し充分ではないが、おおむね理解されているものと判断される。

以上のことから、本校では、目的が、学校の構成員に周知されている。

観点 1 - 2 - : 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的は、全てウェブページに掲載することによって、社会に対して公表している。主として中学生を対象とした進学志望の手引にも、準学士課程における各学科・学系の教育目的(資料 1 - 2 - - 1)、専攻科課程における各専攻の教育目的(資料 1 - 2 - - 2)を記載し、学校説明会、一日体験入学、公開講座、テレワークセミナー、オープンセミナーで全参加者に対して配布している(資料 1 - 2 - - 3)ほか、県内の中学校を中心として、学校の説明を訪問して行っており、進学志望の手引を配布するとともに、学校の目的の説明を行っている(資料 1 - 2 - - 4)。

また、求人のための面談に来校された企業の担当者、進学先の大学等に対しては、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的を記載した学校要覧を配布している(資料 1 - 2 - - 5, 資料 1 - 2 - - 6)。さらに、年 2 回開催されるテクノフォーラムにおいては、施設見学等を通して本校の教育目的についての理解を深めていただいている(第 1 回から第 4 回のテクノフォーラム参加者名簿は現地閲覧資料 1 として示す)。

各学科・学系の教育目的

機械工学科： 機械工学科 5 年間の課程を卒業する人の達成目標は“材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に応用できること”です。

電気電子工学科： 電気電子工学科では、エレクトロニクス、コンピュータ、コミュニケーション（通信）、エネルギーなど、幅広い分野の専門的な技術と知識を身につけ、次世代の産業社会を担えるような優れた技術者・・・創造力が豊で、自由な発想に富み、誠実な態度でもの事に取り組める人・・・を育てることを目標にしています。

電子制御工学科： 制御技術は、電気・電子工学、機械工学、情報処理工学を基礎とした広範囲な技術の融合によって支えられています。電子制御工学科では、このような広い技術に対応できる、次世代の技術者の育成を教育の目標としています。

情報工学科： 現在社会のあらゆる分野でコンピュータが利用されています。科学技術だけでなく、医療、商業、流通、サービスなど、コンピュータなしには社会が機能なくなっています。さらに、画像音声も扱うマルチメディア情報システムが一層発展し、より豊かな情報化社会が約束されています。このような情報化社会の実現には多くの情報処理技術者が必要とされ、情報工学科はこの社会的要望に応じて、高度な情報処理技術をもつ技術者の育成を目標としています。

環境都市工学科： 環境都市工学科は、構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけることを目標としています。

人文学系： 人文学系では、国語、社会、外国語等の学習を通じて、心身の鍛練、コミュニケーション能力の向上をはかります。

基礎学系： 基礎学系では、数学、物理、科学等の学習を通じて、理論的思考、実験技術を身に付けさせ、国際的に通用する技術者に必要な基礎力を付けさせます。理数系科目は、普通科の高校に比べ授業時間数も多く、3年生までに多く配置されていますが、それは低学年のうちに必要な基礎力を養い、高学年での専門領域の授業に備えるためです。

（出典 進学志望の手引 5 頁，7 頁，9 頁，11 頁，13 頁，15 頁）

各専攻の教育目的

木更津高専には、5年間の高専学科の上級コースとして、2年間の専攻科があります。高専の一貫教育という特徴を生かしながら、地域・産業界との密接な協力・連携のもとで、より高度な教育・研究指導を行い、研究開発能力、創造能力を兼ね備えた新しい型の実践的専門技術者の養成をしています。

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成をめざしています。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術，ソフトウェア技術，通信技術，制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い，創造的，実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成をめざしています。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに，これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成をめざしています。

(出典 進学志望の手引 17 頁，18 頁)

資料 1 - 2 - - 3 (1 / 2)

一日体験入学及び公開講座実施状況

行事内容		対象者	開催日	参加者数
学校説明会（本校会場）		中学生	平成 17 年 10 月 2 日	248
学園祭における入試相談コーナー		中学生	平成 17 年 10 月 29 日 平成 17 年 10 月 30 日	57
一日体験入学	機械工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 8 月 4 日	112
	機械工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 8 月 5 日	71
	電気電子工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 6 月 18 日	117
	電気電子工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 7 月 27 日	49
	電気電子工学科（第 3 回）	中学生	平成 17 年 7 月 28 日	38
	電子制御工学科	中学生	平成 17 年 7 月 29 日	94
	情報工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 8 月 2 日	98
	情報工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 8 月 3 日	35
	環境都市工学科（第 1 回）	中学生	平成 17 年 7 月 25 日	26
	環境都市工学科（第 2 回）	中学生	平成 17 年 8 月 1 日	46
公開講座	タイピング 4 時間で完全マスター	中学生	平成 17 年 7 月 24 日 平成 17 年 7 月 25 日	3
	PC の自作講座 ～入門編～	中学生	平成 17 年 7 月 26 日 平成 17 年 7 月 27 日	4
	移動ロボット製作教室	中学生	平成 17 年 7 月 26 日 ～ 7 月 28 日	17
	Web カメラを用いた静止画像配信技法	中学生	平成 17 年 8 月 3 日	2
	Web カメラを用いた静止画像配信技法	高校生	平成 17 年 5 月 21 日	2
	Web カメラを用いた静止画像配信技法	高校生	平成 17 年 10 月 22 日	2
	Pov-Ray による CG 作成入門	中学生	平成 17 年 8 月 6 日	1
テレワークセミナー	アジアの環境破壊を考える	中学生以上	平成 17 年 10 月 16 日	4
	カイロプラクティックについて	中学生以上	平成 17 年 10 月 16 日	4
	レゴロボット（第 1 回）	小中学生	平成 17 年 11 月 6 日	11
	レゴロボット（第 2 回）	小中学生	平成 17 年 11 月 19 日	10
	パワーポイントでカレンダーを作ろう	高校生以上	平成 17 年 11 月 13 日	4
	かんたん年賀状づくり	小学生以上	平成 17 年 11 月 26 日	10
	かんたん！コンクリートづくり	小学生	平成 17 年 11 月 27 日	9
	エクセルで簡単家計簿です！	小学生以上	平成 17 年 11 月 27 日	6

資料 1 - 2 - - 3 (2 / 2)

	行事内容	対象者	開催日	参加者数
オープンセミナー	パソコンで遊ぼう	中学生	平成 17 年 5 月 29 日	30
	ウェルネスセミナー① 誰よりも速く走ろう！ (第 1 回)	中学生	平成 17 年 6 月 11 日	14
	ウェルネスセミナー② 柔道ってどんなもの	小学生	平成 17 年 7 月 3 日	13
	パソコンによるプレート彫刻	中学生以上	平成 17 年 7 月 16 日	6
	牛乳パックで橋づくり (第 1 回)	小学生	平成 17 年 7 月 21 日	4
	牛乳パックで橋づくり (第 2 回)	小学生	平成 17 年 7 月 22 日	4
	I T 講習会	小中学生	平成 17 年 7 月 26 日	14
	英語リスニング講座	中学生以上	平成 17 年 8 月 8 日 ～ 8 月 10 日	10
	背骨と健康 (カイロプラクティックの立場から)	中学生以上	平成 17 年 8 月 21 日	25
	青少年のためのおもしろサイエンス (第 1 回)	小中学生	平成 17 年 8 月 24 日	46
	サンドブラストアート	中学生以上	平成 17 年 8 月 24 日	11
	地震が起こった時、あなたならどうする？	中学生以上	平成 17 年 8 月 28 日	9
	エレキギターを作ろう！！	小中学生	平成 17 年 10 月 1 日	7
	ウェルネスセミナー③ ジュニアバレーボール教室	小学生	平成 17 年 9 月 10 日 平成 17 年 10 月 1 日 平成 17 年 10 月 8 日	50
	パソコンで年賀状を作ろう	中学生以上	平成 17 年 10 月 23 日	13
	青少年のためのおもしろサイエンス (第 2 回)	小中学生	平成 17 年 10 月 30 日	42
	鑄造でメダルを作ろう	中学生以上	平成 17 年 11 月 12 日	6
	ウェルネスセミナー① 誰よりも速く走ろう！ (第 2 回)	中学生	平成 18 年 3 月 25 日	7

(出典 庶務及び教務資料)

資料 1 - 2 - - 4 (1 / 5)

中学校等訪問先一覧

項目	会場または中学校名	訪問日	進路志望の手引配布部数	
学校説明会	高専合同説明会（柏）	平成 17 年 7 月 25 日	39	
	市川会場	平成 17 年 7 月 17 日	31	
	佐原会場	平成 17 年 7 月 28 日	11	
	柏会場	平成 17 年 8 月 1 日	25	
	茂原会場	平成 17 年 8 月 2 日	8	
	館山会場	平成 17 年 8 月 3 日	5	
	成田会場	平成 17 年 8 月 3 日	20	
	銚子会場	平成 17 年 8 月 4 日	11	
	千葉会場	平成 17 年 8 月 5 日	34	
首都圏進学フェア	幕張メッセ	平成 17 年 8 月 20 日	29	
	幕張メッセ	平成 17 年 8 月 21 日	30	
	柏	平成 17 年 10 月 2 日	14	
	木更津市民会館	平成 17 年 10 月 30 日	25	
その他の説明会	船橋（学習塾対象）	平成 17 年 9 月 18 日	43	
	進学塾対象説明会（木更津高専）	平成 17 年 10 月 25 日	30	
	君津地方公立高校合同説明会（木更津市）	平成 17 年 10 月 4 日	80	
	市原市私立高校等合同説明会（市原市）	平成 17 年 10 月 14 日	30	
中学校訪問	千葉市	花園中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		幕張中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		朝日ヶ丘中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		高洲第 1 中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
		花見川第 1 中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		緑ヶ丘中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		小中台中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		稲毛中学校	平成 17 年 7 月 1 日	6
		草野中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		千葉大学教育学部付属	平成 17 年 7 月 8 日	6
		みつわ台中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6

資料 1 - 2 - - 4 (2 / 5)

	幸町第 1 中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	誉田中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	泉谷中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	白井中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	土気南中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	蘇我中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	生浜中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	松ヶ丘中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	椿森中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
船橋市	飯山満中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	大穴中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
市川市	妙典中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
習志野市	習志野第 1 中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
	習志野第 7 中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
八千代市	八千代中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
	睦中学校	平成 17 年 7 月 13 日	4
松戸市	六実中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
	根木内中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
我孫子市	湖北中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
	白山中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
佐倉市	井野中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	佐倉東中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
	臼井南中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
四街道市	四街道西中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
印旛郡 酒々井町	酒々井中学校	平成 17 年 7 月 1 日	4
富里市	富里中学校	平成 17 年 7 月 1 日	4
白井市	南山中学校	平成 17 年 7 月 1 日	4
印旛郡 栄町	栄中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
	栄東中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
香取郡 神崎町	神崎中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
東金市	東金中学校	平成 17 年 7 月 12 日	4
	東金西中学校	平成 17 年 7 月 12 日	4
	東金北中学校	平成 17 年 7 月 12 日	4
山武郡 大網白里町	大網中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4
	白里中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4

資料 1 - 2 - - 4 (3 / 5)

		増穂中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4
	山武郡 九十九里町	九十九里中学校	平成 17 年 7 月 22 日	4
	茂原市	南中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		早野中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		茂原中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		東中学校	平成 17 年 7 月 15 日	4
		本納中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
		西陵中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
		富士見中学校	平成 17 年 7 月 8 日	4
	市原市	南総中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		ちはら台南中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		市東中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		辰巳台中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		湿津中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		菊間中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		八幡中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		八幡東中学校	平成 17 年 7 月 15 日	6
		若葉中学校	平成 17 年 7 月 15 日	6
		五井中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		国分寺台中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		国分寺台西中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		東海中学校	平成 17 年 7 月 11 日	6
		三和中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		双葉中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		市原中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		加茂中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		千種中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
		姉崎中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
		有秋中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6
	姉崎東中学校	平成 17 年 7 月 13 日	6	
	袖ヶ浦市	昭和中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		長浦中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		蔵波中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		平川中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
		根形中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
		岩根中学校	平成 17 年 7 月 4 日	6

資料 1 - 2 - - 4 (4 / 5)

木更津市	木更津第三中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	太田中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	清川中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	鎌足中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	波岡中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
	富来田中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	畑沢中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
君津市	周西中学校	平成 17 年 7 月 7 日	6
	周西南中学校	平成 17 年 7 月 7 日	6
	君津中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
	富津中学校	平成 17 年 7 月 7 日	6
	八重原中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	周南中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	小糸中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	清和中学校	平成 17 年 7 月 5 日	6
	久留里中学校	平成 17 年 7 月 6 日	6
	小櫃中学校	平成 17 年 7 月 8 日	6
	亀山中学校	平成 17 年 7 月 4 日	6
松丘中学校	平成 17 年 7 月 4 日	6	
夷隅郡 大多喜町	大多喜中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
大多喜町	大多喜西中学校	平成 17 年 7 月 4 日	4
夷隅郡 夷隅町	国吉中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
夷隅郡 御宿町	御宿中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
夷隅郡 大原町	大原中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
夷隅郡 岬町	岬中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
富津市	大貫中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
	佐貫中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
	天羽中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
	天羽東中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
安房郡 富浦町	富浦中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
安房郡 富山町	富山中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4

資料 1 - 2 - - 4 (5 / 5)

		天羽東中学校	平成 17 年 8 月 8 日	6
安房郡 富浦町		富浦中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
安房郡 富山町		富山中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
安房郡 鋸南町		鋸南中学校	平成 17 年 7 月 11 日	4
館山市		館山第 1 中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4
		館山第 2 中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4
		館山第 3 中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4
		房南中学校	平成 17 年 7 月 20 日	4

(出典 教務資料)

資料 1 - 2 - - 5 (1 / 2)

求人面談企業一覧

機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科
南部化成(株)	朝日エディック㈱	(株)ティ・アイ・ディ	セコム(株)	東海旅客鉄道(株)
(株)オリムピック	旭化成㈱	松下電器産業(株)パナソニック オートモーティブシステムズ社	出光興産(株)	大成建設(株)
日本エア・フィルター(株)	㈱アベイラス	出光興産(株)	(株)CRGシステムズ	(株)トーテック
出光興産(株)千葉製油所千葉工場	アルトナー	(株)ジャパンアウトソーシング	(株)トーテック	フジテック(株)
(株)トーテック	アンドール㈱	(株)堀増テクノサービス	ネクストウエア(株)	チッソエンジニアリング(株)
(株)テクシア	アンドールシステムズ㈱	JFE電機(株)	サントリー(株)	人事院・関東
日本貨物鉄道(株)関東支社	イチカワ㈱柏工場	(株)CRGシステムズ	(株)テクシア	日揮プロジェクトサービス(株)
日清紡績(株)研究開発センター	出光興産(株)千葉製油所	(株)トーテック	(株)ヒップ	セコム(株)
理研ビタミン(株)	ウル㈱	サントリー(株)	TMCシステム(株)	(株)ベクトル・ジャパン
トランスコスモス(株)	宇部マテリアル	(株)テクシア	川崎マイクロエレクトロニクス(株)	コスモ石油(株)千葉製油所
キャンシステムアンドサポート(株)	㈱NITファシリティーズ	花王(株)	日本放送協会	西日本旅客鉄道(株)
花王(株)	㈱エフ・ディ・シー(FUJITSUグループ)	(株)ヒップ	ビクターテクノブレーン(株)	京葉ガス(株)
河口湖精密(株)	エムケーテーズ(株)	日本精工(株)	東日本旅客鉄道(株)	JFEスチール(株)東日本製鉄所
(株)ヒップ	王子コンスターテ㈱	川崎マイクロエレクトロニクス(株)	アンドール(株)	環境エンジニアリング(株)
森永乳業(株)東京工場	王子製紙㈱富士工場・江戸川工場	ビクターテクノブレーン(株)	JUKI(株)	自衛隊千葉地方
協和発酵ケミカル(株)	オムロンフィールドエンジニアリング	東日本旅客鉄道(株)	(株)エフディシー	千葉ガス(株)
旭化成グループ(旭化成(株))	㈱オリエンタルランド	旭化成(株)	CTOテクノロジ(株)	(株)丸屋建設
アンドールグループ(アンドール(株))	オリンバス㈱	矢崎総業(株)	富士電気システムズ(株)	
いすゞエンジニアリング(株)	花王㈱	昭和産業(株)	東海旅客鉄道(株)	
昭和産業(株)鹿島工場	㈱カネカ	(株)エフ・ディ・シー	(株)JAL航空機整備東京	
	川崎マイクロエレクトロニクス㈱	JUKI(株)	(株)放送衛星システム	
	河村産業㈱amt研究所	技研電子(株)	NECシステム建設エンジニアリ ング(株)	
	㈱キクチ	東海旅客鉄道(株)	(株)ウィズダム	
	技研電子㈱	富士電機システムズ(株)	リコーテクノシステムズ(株)	
	キャンシステムアンドサポート(株)	(株)JAL航空機整備成田	(株)バース情報科学研究所	
	キャン電子㈱	(株)JAL航空機整備東京	凸版印刷(株)	
	共栄電設㈱	(株)JALエアビテック	(株)朋栄	
	㈱協和エクシオ	JALエンジンテクノロジー(株)	ソニーEMCS(株)木更津テック	
	協和発酵ケミカル㈱	(株)放送衛星システム	ソニーEMCS(株)小見川テック	
	㈱コムニク	日産自動車(株)	ソニーEMCS(株)東日本OSフロン トセンター	
	山丸㈱	(株)日産ディーゼル技術研究所	日本IBM(株)プロダクトサービス	
	サントリー㈱	(株)ウィズダム	オムロンフィールドエンジニアリ ング(株)	
	㈱CRGシステムズ	日本電気システム建設エンジニアリ ング(株)	(株)日鉄エレックス	
	CTOテクノロジ(株)	(株)バース情報科学研究所	(株)エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ	
	JFEスチール㈱東日本製鉄所	凸版印刷(株)	東日立電子サービス(株)	
	JFE電機	キャン電子(株)	オリンバス(株)	
	㈱システムエグゼ	電気興業(株)	日本航空テクノ(株)	
	シチズン時計㈱	日本ビクター(株)	(株)ネオテクノ	
	㈱ジャパンアウトソーシング	ソニーEMCS(株)木更津テック	ダイキン工業(株)	
	㈱JALエアビテック	ソニーEMCS(株)小見川テック	(株)日立製作所	
	㈱JALエンジンテクノロジー	オムロンフィールドエンジニアリ ング(株)	ネットワークサービスアンドテ クノロジーズ(株)	
	㈱JAL航空機整備東京	(株)日鉄エレックス	(株)吉野工業所	
	㈱JAL航空機整備成田	日本たばこ産業(株)北関東工場	(株)アルトナー	
	JUKI㈱	JFEスチール(株)	東芝電波プロダクツ(株)	
	昭和産業株鹿島工場	東日立電子サービス(株)	レンゴウ(株)	
	㈱和パッケージ	セコムテクノサービス(株)	(株)メセナネットコム	
	㈱スズキ技研	キャンシステムアンドサポート(株)	防衛庁	
	㈱セガ・ロジスティクスサービス	オリンバス(株)	(株)ハタシ	
	石油資源開発㈱	(株)ネオテクノ	(株)ソフトウイング	
	セコム	日本空港テック(株)	朋和産業(株)	
	セコムテクノサービス㈱	TDK(株)	ウィル(株)	
	宇部マテリアル(株)千葉工場	ダイキン工業(株)	(株)コムニク	
	(株)ハタシ	高士石油(株)	(株)システムエグゼ	
	日立グループ(株)日立製作所	ネットワークサービスアンドテ クノロジーズ(株)	(株)協和エクシオ	
	ダイキン工業(株)	安川エンジニアリング(株)	石油資源開発(株)	
	(株)ネオテクノ	ムラテックG.C.S.株	(株)ラック	
	(株)カネセツ 東京支社	(株)アルトナー	(株)アベイラス	
	安川エンジニアリング(株)	日本原子力発電(株)	(株)タマディック	
	山崎製パン(株)	東芝電波プロダクツ(株)	フジオーネ・テクノ・ソリューション ズ(株)	
	(株)東鋼	中外テクノビジネス㈱		
	(株)ニフコ	理化学工業(株)		
	王子コンスターテ(株)千葉工場	(株)キクチ		
	(株)アルトナー	三興コントロール(株)		
	レンゴウ(株)千葉工場	レンゴウ(株)		
	日本原子力発電(株)	(株)ソフトウイング		
	中外テクノビジネス(株)	(株)トプコン		
	理化学工業(株)	道路通信エンジニア(株)		
	三興コントロール(株)	自衛官		
	JFEメカニカル(株)	富士重工業(株)		
	JFE物流(株)	太平工業(株)君津支店		
	シチズン時計(株)	(株)成田エアポートテクノ		
	東芝エレベータ(株)	日本ビストンリグ(株)		
	太平工業(株)	(株)ダイキンアプライドシステムズ		
	(株)成田エアポートテクノ	(株)コムニク		
	産機エンジニアリング(株)君津事業所	(株)セガ・ロジスティクスサービス		
	(株)資生堂 鎌倉工場	日進化成(株)		
	カルブ工業(株)	富士電機EIC(株)		
	販和流通センター東京(株)	日本エイム(株)		
	ソニーエムシーエス(株)東日本OSフロントセンター	(株)協和エクシオ		
	(株)ソフトウイング	石油資源開発(株)		
	朋和産業(株)	(株)ラック		
	ウィル(株)	フジオーネ・テクノ・ソリューションズ(株)		
	(株)高田工業所	(株)タマディック		
	(株)三遠試験センター 東部事業所	イチカワ(株)柏工場		
	(株)ダイキンアプライドシステムズ	(株)システムエグゼ		
	黒田精工(株)			
	(株)セガ・ロジスティクスサービス			
	神岡(株)			
	北辰工業(株)			
	丸紅エネックス(株)			
	石油資源開発(株)			

資料 1 - 2 - - 5 (2 / 2)

クノール食品(株)	日本精工㈱			
(株)Mテック	日本たばこ産業㈱北関東工場			
フジオーネ・テクノ・ソリューションズ(株)	日本電気システム建設エンジニアリング㈱			
(株)スズキ技研	日本電設工業㈱			
	日本ビクター㈱			
	日本ビストンリング㈱			
	日本放送協会(NHK)			
	㈱ネオテック			
	ネットワークサービスアンドテクノロジーズ㈱			
	㈱パース情報科学研究所			
	㈱ハタシ			
	パナソニックエレクトロデバイス㈱			
	パナソニックオートモーティブシステムズ社			
	東日本旅客鉄道㈱			
	ビクターテクノプレーン㈱			
	㈱日立製作所(グループ)			
	㈱日立ビルシステム			
	㈱ヒップ			
	ファナック(株)			
	フジオーネ・テクノ・ソリューションズ㈱			
	富士重工業㈱東京事業所・群馬製作所			
	不二製油㈱			
	富士石油㈱袖ヶ浦製油所			
	フジテック㈱			
	富士電機EIC㈱			
	富士電機システムズ㈱			
	㈱朋栄			
	㈱放送衛星システム			
	朋和産業㈱			
	㈱マイスターエンジニアリング			
	丸善石油化学㈱			
	ムラテックC.C.S.㈱			
	森永乳業㈱東京工場			
	矢崎総業(株)			
	安川エンジニアリング㈱			
	山崎製パン㈱			
	㈱横河ブリッジ			
	㈱吉野工業所市川工場			
	㈱ラック			
	理化学工業株			
	理研ビタミン㈱			
	レンゴー㈱利根川事業所			

(出典 平成 17 年度第 5 学年担任会資料)

学校要覧の学外配布状況

配布先	配布部数	配布先	配布部数
他高専	62	岡山大学	2
高専機構本部	8	広島大学	2
北海道大学	2	山口大学	2
室蘭工業大学	2	徳島大学	2
北見工業大学	2	香川大学	2
弘前大学	2	愛媛大学	2
岩手大学	2	高知大学	2
東北大学	2	九州大学	2
秋田大学	2	九州芸術工科大学	2
山形大学	2	九州工業大学	2
茨城大学	2	佐賀大学	2
筑波大学	2	長崎大学	2
宇都宮大学	2	熊本大学	2
群馬大学	2	宮崎大学	2
埼玉大学	2	琉球大学	2
千葉大学	2	首都大学東京	2
東京大学	2	長岡造形大学	2
東京農工大学	2	前橋工科大学	2
東京工業大学	2	独協大学	2
東京海洋大学	2	日本大学	2
御茶ノ水女子大学	2	成蹊大学	2
電気通信大学	2	東京理科大学	2
横浜国立大学	2	東京工科大学	2
新潟大学	2	千葉工業大学	2
長岡技術科学大学	2	京都文教大学	2
富山大学	2	京都造形芸術大学	2
金沢大学	2	長崎総合科学大学	2
福井大学	2	放送大学	2
山梨大学	2	清和大学	2
信州大学	2	メディア教育開発センター	1
名古屋工業大学	2	国立歴史民俗博物館	1
岐阜大学	2	留学生派遣国大使館	5
静岡大学	2	国際学友会日本語学校	5
豊橋技術科学大学	2	日本国際教育協会理事長	3
三重大学	2	千葉県産業振興センター	1
京都大学	2	文部科学省	2
京都工芸繊維大学	2	千葉県教育庁指導課	1
大阪大学	2	千葉県人事委員会	1
神戸大学	2	茂原市教育委員会	2
和歌山大学	2	木更津市長	2
鳥取大学	2	木更津市記者クラブ	5
島根大学	2		

(分析結果とその根拠理由)

ウェブページに、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的を全て掲載している。また、中学生向けの進学志望の手引においても、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的が記載され、学校説明会、一日体験入学、公開講座時等に積極的に説明している。また、本校近隣及び就職先等の関係企業、進学先の大学等に対して、学校要覧を配布している。

以上のことから、本校の目的が、社会に対して広く公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 本校は、高等専門学校としての目的が、学校の使命、教育方針、学習・教育目標、各学科・学系及び各専攻の教育目的という形で、分かりやすく定められており、教職員の目的に対する理解度がきわめて高い。
- ・ 本校の目的は、創設当時に制定された教育方針から、伝統的に培われてきた実学教育を、具体的に学習・教育目標という形で展開しており、学校教育法の目的に十分沿って策定されている。
- ・ 本校は、本校の内容を、社会一般の方々に広く理解してもらうために、ウェブページを充実させ、学校説明会、一日体験入学、公開講座、テクノフォーラム等を積極的に開催し、多くの参加者を集めている。

(改善を要する点)

- ・ 特になし。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、創設時に学校の使命、2001年4月に専攻科の使命を定め、それが現在に至るまで貫かれている。これらの使命を具体化するための教育方針は、本校における建学の精神として、創設当時より明文化されている。更に、この教育方針を土台にして、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標が展開され、各学科・学系及び各専攻の教育目的をより具体的に定めることにより、学生が本校において学修する際の具体的な指針を示していることから、学校の目的は明確に定められている。

本校の使命は、高等専門学校の設置の趣旨及び学校教育法における高等専門学校の目的を踏まえて定められたものであり、本校の教育方針、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、各学科・学系及び各専攻の教育目的は、学校教育法に定める高等専門学校の目的との関連を明確に意識して策定されていることから、本校の目的は、学校教育法の規定からはずれものではない。

教育目的の周知方法としては、ウェブサイトを積極的に活用するとともに、教職員に対しては、学校要覧、教官会議・技術教育支援センター会議等の会議資料及び初任者研修資料等により周知し、学生に対しては、学生便覧及び各学年開始時期のガイダンス等により周知を図っている。結果として、事務職員は、本校の使命、教育方針について、十分に認識している。更に、教員及び技術教育支援センター職員は、各課程の学習・教育目標、学科・学系の教育目的、各専攻の教育目的について、十分に理解している。学生に対しては、学修を行う上で特に重要である、本校の教育方針、自らが所属する課程の学習・教育目標、学系及び自らが所属する学科又は専攻の教育目的を中心に理解を促しており、準学士課程において認識度の向上を図るために、全教室にパネル掲示する等の更なる工夫の余地があるものの、学校全体としては、目的が構成員に対し概ね良く周知されている。

また、本校の目的は、ウェブページや刊行物への掲載、学校説明会、一日体験入学や県内を中心とする中学校への訪問時の説明及び学校要覧の学外配布等によって、社会に対して広く公表されている。特に、公開講座、テクノフォーラム等を積極的に開催し、多くの参加者を集めている。